

北海道総鎮守
北海道神宮



北海道神宮社務所

〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘四七四
TEL(代) 011-611-0261
FAX 011-611-0264
<http://www.hokkaidojingu.or.jp>

平成二十三年二月

御祭神

おおくに たまの かみ
大國魂神
 北海道の国土の神

おおな じちの かみ
大那牟遲神
 大國主神と同神、国土経営・
 開拓の神

すくな ひこ なの かみ
少彦名神
 国土経営・医薬・酒造の神

明治天皇
 近代日本の礎を築かれた
 第二百二十二代の天皇



由緒

明治二年九月一日、明治天皇の詔により北海道の守護神・開拓の神として御鎮齋（おんちんさい）になったのが北海道神宮の創祀である。

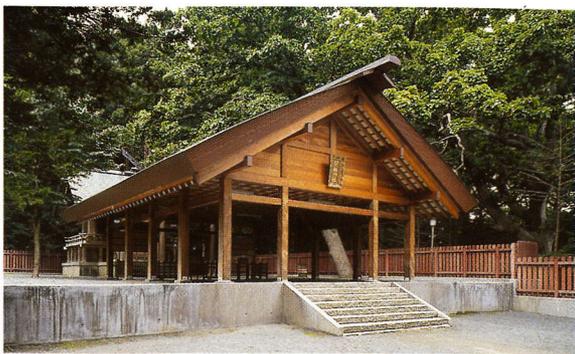
つづいて、二代目開拓長官東久世通禧（あづまひさよし）が東京の神祇官から開拓三神の御霊代を奉戴し、船にて北海道へ渡り、箱館より開拓判官島義勇（しまよむね）が御霊代を背負い、札幌の地に入り、明治三年五月、仮の社殿を北五条東一丁目に建て、続いて明治四年五月に札幌神社と社名が定まり、同年九月現在の円山の地に鎮座された。昭和三十九年明治天皇を増祀し北海道神宮と改称し、名実ともに北海道の総鎮守として崇敬されている。



祭事暦

一月一日	歳旦祭 <small>（さいたんさい）</small>
一月三日	元始祭 <small>（げんしさい）</small>
一月十四日	古神札焼納祭 <small>（こしんざつしょうのうさい）</small>
二月（立春の前日）	節分祭 <small>（せぶんさい）</small>
二月十一日	紀元祭 <small>（きげんさい）</small>
二月十七日	祈年祭 <small>（いねんさい）</small>
六月十五日	例祭 <small>（れいさい）</small>
六月三十日	大祓 <small>（おほはらひ）</small>
八月十五日	開拓神社例祭 <small>（かいたくしんじれいさい）</small>
九月一日	御鎮齋記念祭 <small>（おんちんさいきねんさい）</small>
九月十五日	頓宮例祭 <small>（とんみやれいさい）</small>
十一月三日	明治祭 <small>（めいじさい）</small>
十一月二十三日	新嘗祭 <small>（にいなめさい）</small>
十二月二十三日	天長祭 <small>（てんぢょうさい）</small>
十二月三十一日	大祓 <small>（おほはらひ）</small>
● 毎月一日、十五日	除夜祭 <small>（じゆんやさい）</small>
● 毎月十日、二十日	月次祭 <small>（つきじさい）</small>
	旬祭 <small>（じゆんさい）</small>





開拓に幾多の困難を克服して北海道発展の基礎を樹立された先人達の遺徳を偲び、その功績を称え、昭和十三年開拓七十周年に時の北海道庁長官石黒英彦によって創建された。昭和六十三年鎮座五十年をむかえ新たに拝殿が造営された。

開拓神社

【祭神】

三十七柱の開拓功労者

【例祭】

八月十五日（蝦夷地を北海道とあらためた日）



頓宮

明治十一年、現在地に遙拝所を建立して住民はここから札幌神社を遙拝していた。又本社例祭には神輿の御旅所とされていた。明治三十四年失火により全焼したが、明治四十三年本社の大造営に依り旧材をもって現在の社殿が再建され頓宮と称された。昭和二十二年九月三十日に本宮の御分霊を奉斎して末社となった。

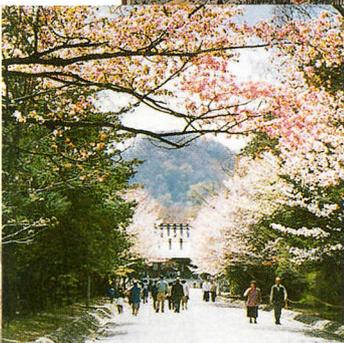
〒〇六〇一〇〇五二
札幌市中央区南二条東三丁目
電話（〇一）二二一〇八四

北海道神宮の末社

光春之内境社神祝礼中幣宮



▶明治三十三年五月境内観桜絵図



神宮の桜

境内の桜は、明治八年に福玉仙吉が島義勇の御霊を慰める為に参道両側に献植されたことにはじまる。

現在エゾヤマザクラ、ソメイヨシノ、ヤエザクラ等約一四〇〇本あり、札幌の桜の名所として親しまれ開花の季節五月には、多数の参拝者で賑わっている。

人生儀礼

初宮詣

一般に男児は生後三十一日目に、女兒は十三日目に、祝着を着せて神社に参拝しますが、道内では百日前後が多い様です。家族揃って幼児の成長御加護を祈願します。



七五三詣

七五三祝は古く男女三歳で髪置、男子五歳で袴着、女子七歳で帯直等の祝儀が行われましたが、今日の七五三の様になったのは大正の頃からで、札幌では十月十五日神社

に参拝し、これまでの成長を感謝し、今後とも健やかに成育する様お祈りします。



学業成就祈願

御祭神明治天皇は「教育勅語」の中で国民に人の道や学問の道を説かれています。入園・入学の喜びを奉告すると共に健康と学業の成就を祈願します。

成人奉告

成人に達した事を祝福し、大人として責任を持ち、国や社会に貢献することを神前に

奉告し、誓いを新たにします。

神前結婚式

結婚は人生儀礼の上で最も厳粛であり、夫婦が一体となつて苦楽を共にし、世の荒波をしのいで行く覚悟を固め、神前で誓いをたてます。また、毎年結婚記念日を祝う事も意義深く、特に銀婚式(二十五年)、金婚式(五十年)は、広く一般に祝われています。



安産祈願

赤ちゃんが無事に生まれます様、母親が妊娠五ヶ月目の戌の日に神社で安産を祈願します。

厄祓

昔から思ひ慎むべき厄難のある大切な年齢に達し、社会的にも重要な役割を担う様になる頃、それと相俟って心身の疲労・病氣・災厄が起こりやすく、人生の転換期として、自覚と慎みが必要な時期なのです。年頭に神社に詣で厄を祓います。

年齢(数え)

男子二十五歳・四十二歳
女子十九歳・三十三歳

年祝

長寿をみんなでお祝いするならわしです。還暦(六十一歳)は干支(十干十二支)が満六十年でもとに戻るので本卦還りともいいます。古稀(七十歳)は「人生七十古来稀なり」の語に基づきます。喜寿(七十七歳)は喜を「喜」にあてたものです。傘寿(八十歳)は傘の略字「伞」から来ています。米寿(八十八歳)は米を「米」にあてたものです。卒寿は卒の略字「卒」から来ています。白寿(九十九歳)は、百から一を取ると白の形になるからです。

家内安全祈願

家庭の平和を感謝する事から始まります。家族そろって神前に詣で、新しい年を迎え

交通安全祈願

交通事故が多発していますが、先ずは自己を正し、人も車も清々しく祓い清め神前に交通安全を誓い神様のご加護を祈ります。



この他にも、会社の商売繁栄・社内安全等々、様々な祈禱をご奉仕しております。

住居の新築・購入等にもなう祭典については、神職が直接現地へうかがって奉仕致します。

地鎮祭

建物の新築にあたり、先ず土地の神様に奉告をし、土地の平安堅固と工事の安全、無事完成する事を祈ります。



上棟祭

建物を新築する時、棟木を上げるにあたり家屋の神様・工匠の神様を祀って、今後末

永く建物に禍なく幸せのある事を祈る祭です。



竣工祭

住宅・建物の完成した後、工事が無事終了した事を感謝すると共に繁栄と平安を祈ります。

神棚清祓

新しく家屋（マンション等も）に移り住む前に、新しい神棚の御前で、神様にその旨をご奉告申し上げ、各部屋を祓い清めて新

しい暮らしの平安を祈念します。



開店清祓

新しい店舗の開店を神様に感謝し、みなに親しまれ、事故無く商売が繁昌する様に、店主・家族・従業員が集まって祈願します。

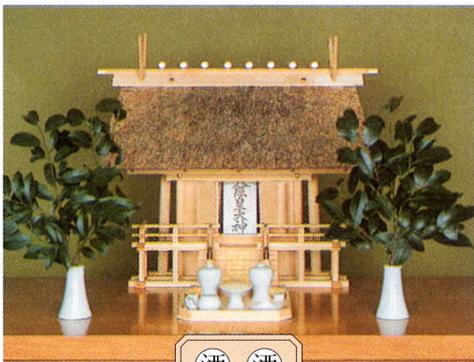
この他にも、会社事務所の神棚清祓・移転清祓や、老朽化した建物の解体清祓等も奉仕しております。

くわしくは、北海道神宮までお問合せ下さい。

神棚・拜礼作法

【神棚のまつり方】

神棚は、目の高さより少し上にお祀りし、お神札が南か東に向くのが一般的ですが、間取りによつ



〈おまつりの一例〉

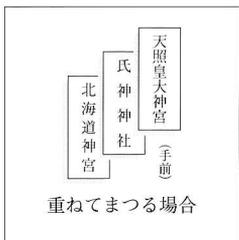
てはお祀りするにふさわしい明るく清らかな場所であれば良いでしょう。しめ縄は神棚の前面に掛けて、本の太い方を向かって右に、木の細い方を左にして掛け、四枚の紙垂を付けます。

【お神札の納め方】

神社から受けて来たお神札は、次の様にお祀りします。



横に並べてまつる場合



重ねてまつる場合

【お供え】

神棚には、桐等の常緑樹をお飾りし、お米・お酒・お塩・お水等をお供えします。

季節の初物、お土産等もその都度お供えし、後ほどご家族で頂いて下さい。

【お参りの作法】

神社・神棚等、神前でのお参り作法です。

- 一 拝（深くお辞儀を二回）
- 二 拍手（手を二回たく）
- 三 一拝（深くお辞儀を一回）

一年間、お家・会社をお守り頂いた古いお神札は、感謝を込めて神社にお納めし、また一年間をお守り頂く新しいお神札をお受け下さい。



小動物の楽園

神宮の境内は、杉・檜をはじめオンコ・カシワ・ナラ等の針葉樹・広葉樹が混在して生い茂り豊かな緑に恵まれている。そ
 の中で、野生のエゾリス・キタ
 キツネ、またアカゲラ・キビ
 タキ・エナガ・ヤマガラ・ヒ
 ヨドリ等の野鳥が四季折々姿
 を見せ、さながら小動物の楽園
 となっている。



島義勇の銅像

開拓の当時「人馬も入れざる」と表現された
 悪路を島義勇は御霊代を背負って札幌に入り、
 先ず開拓三神の鎮座地を定め、この社地を基
 点として町づくりにあたり北海道開拓の礎を
 築いた。

島判官の功績を称え昭和四十九年十月明治天
 皇御増祀十年を記念して建立された。

